



2021.

6

えんだより

ArteKodomotoKi

社会福祉法人 種の会 アルテ子どもと木幼稚園

〒164-0001 中野区中野1-59-5

Tel 03-3365-0602

ホームページ URL <http://www.tanenokai.jp/>



お知らせ

- ・6月10日にホームページのアドレスが momijiyama から arte に変わります。お気に入り登録されている方は再度登録し直してください。
- ・送迎時の自転車の一時停車は駐輪場をご利用ください。門前に駐輪すると、他のお子様の登園時に危険です。
- ・暑い日には水分と休息をこまめにとり熱中症に注意します。ご家庭でも登園する前に水分補給をお願いします。
- ・髪の毛の長いお子さんは必ずご家庭から結んで登園して下さい。華美な飾りのあるゴムは園帽子を被る時に痛かったり、上手くかぶれないことがあります。他児の誤飲を防ぐためにもシンプルなものでお願いします。
- ・蚊に刺されやすいお子さんは、朝ご家庭で虫よけをして登園してください。貼るタイプや身に着けるタイプのものは取れる危険（薬品ですので）ご遠慮下さい。園ではお散歩の前や夕方外出する場合に園の虫よけスプレーをしています。

June 6 2021						
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3 運動あそび	4	5
6	7 発育測定	8 音楽あそび	9	10 運動あそび 歯科健診	11	12
13	14	15 中止 お話しっくり箱 プラネタリウム (5歳)	16 音楽あそび	17 運動あそび 春季健康診断	18	19
20 父の日	21	22 音楽あそび	23	24 運動あそび	25 誕生会	26
27	28 避難訓練	29 音楽あそび	30			

ファミリーデーにふれあう

園長 山田寿江



園庭のタイサンボクが、白い大輪の花を咲かせました。優しい香りの美しい花です。屋上園庭の高さまで伸びるタイサンボクは、隣のご主人のお父様が生まれた時に植えた木だそうです。樹齢はなんと100年！長い間、子ども達の成長を見守ってきた大木です。時代が移り変わっても子ども達の今を生きる姿に変わりはありません。

コロナ禍で、直接人とふれあう機会が少なくなり、コミュニケーションのあり方も模索が続いています。乳幼児期は、人格形成の基礎を培う大切な時期で、子どもの育ちにふれあいは欠かせませんが、大人にとってもふれあいは必要なのではないでしょうか。ちょっとした雑談のひと時が心のうるおいになるのになあ～と思うのは、昭和世代だけではないと思います。

ファミリーデーは、みんなで交流できる親子のふれあい遊びを予定していましたが、園での開催を見送り、保護者の方の関心が高いサーキットとふれあい遊びを配信させて頂きました。

サーキットは、子どもの動きたい欲求を満たしながら身体能力を高める活動です。基盤となる身のこなし、調整力が高まります。個と集団の両義性があり、限られた空間で、子ども達が同時に多種多様な動きを経験します。GO-STOPなど行動をコントロールする力も身につきます。理事長の片山喜章^{よしづら}が解説つきで紹介。子ども達全体の様子から発達の道筋がみてとれますので、ぜひ他のクラスもご覧下さい。それぞれの発達は違いますが、集団の中で唯一の存在として成長していくことが分かります。

繰り返しの周回で、上手くいく時もあれば上手くいかない時もあり、おののがチャレンジしたいことを試しています。飽きないのは、何度もやってみることができるからです。“こうしてみよう”と、子ども自身が考え動いています。その子なりの動き方を尊重することが大切です。自分の能力と相談しながらやることで、危険を回避する力ともなります。

赤ちゃんの**ふれあい遊び**は、安心でつなぐ信頼関係を結ぶものです。先生と子どもの1対1の関係から、わらべうたやリズム、歌や絵本を通して友だちとの関係へと広がっていきます。

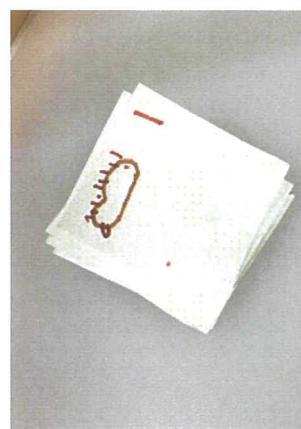
幼児期になると特定の友だちとの結びつきも強くなっていますが、ふれあい遊びを通して「どこでもいい～♪誰でもいい～♪」と、相手を変えながら楽しみ関わりを広げていきます。友だちの身体の重さを感じるふれあい遊びでは、“これが友だち”という、相手の存在を知ることになります。身体と身体のふれあいは、子ども同士の会話とも言えます。

ご家庭で親子のふれあい遊びのヒントにして頂けたらと思っています。

アゲハ蝶の幼虫（あおむし）を見つけました。5歳ナノ組さんは3歳児クラスの時に青虫を飼育してアゲハ蝶にした経験があります。2年ぶりの再会に大喜びで観察します。4歳ナノ組さんも集まってきて、動くたびに「キャーキャー」と声を上げていました。すると、5歳ナノ組のTくんが「ちょっと、言いたいことがあるんだけど」と4歳児に声をかけます。「あのね、青虫はね、大きな声を出すとビックリして枝から落ちちゃうの、落ちると怪我をして蝶々になれないんだよ。」



Tくんは、3歳児クラスだった頃、青虫が大好きでした。触りたい衝動が抑えられず、よく葉っぱで青虫を刺激しては、黄色い触角を出させることを楽しんでいました。2年経つと、こうも変わるものかと思わず笑ってしまいました。Tくんは、青虫に触ることもやめるようにアドバイスしました。そういうえば、7匹いた青虫のうち1匹がサナギになる前に亡くなってしまい、お墓を作ったことがあります。人間が触りすぎるとチョウチョになれないということも理解しているのです。



Tくんは小さな紙を数枚使ってノートのようなものを作りました。そしてそこに1から13までの数字を書きました。何故13までの数字を書いたのかと尋ねると、恥ずかしがって教えてくれなかったのですが、後日、13日目に蝶々になると思ったと教えてくれました。このノートは観察記録用のオリジナルノートだったのです。3歳児クラスの時の経験から5歳児になったTくんの青虫との関わり方の変化に成長を感じ胸のあつくなる思いがしました。

今月の表紙は あおむしの観察画です。動き回っているシーンや葉っぱを食べる姿、サナギになろうとしている様子がよく捉えられています。

主任 黒木

ato 0

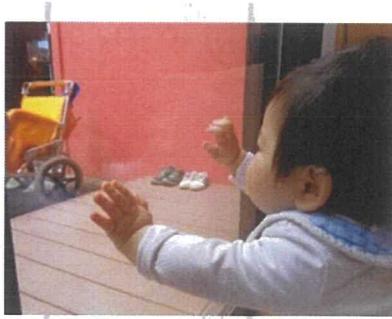
子どもたちの目の前に、大きな新聞紙を広げてみました。「これなんだろう」「触っていいのかな?」と不思議そうな表情をする子どもたち。その中で、迷う様子なく真っ先に新聞紙を手に取ったAさん。手にした新聞紙をじっと見つめた後、思い切り、グシャ!! 新聞紙を小さく丸めるようにして遊び始めました。満足そうな顔をしながら何度も丸めて遊んだ後、今度はビリビリ~! っと大胆に新聞紙を両手で破り始めました。「あれ? これ、破れるぞ…? !」と気付いた様子のAさん。すると、自分の周りにある他の新聞紙を取り、それを次々と破り始めました。破いた新聞紙をまた破り、さらにそれをまた破り…を繰り返すうちに、大きかった新聞紙が手のひらに収まるくらい小さくなっていました。楽しそうに新聞紙で遊ぶAさんを見た他の子どもたちも、「なんだか楽しそう!」と興味を持ったようで、新聞紙を手にして上下に振ったり、顔に近付けたりして遊び始めました。

興味を持って探求していく中で、「これで、こんなことが出来るんだ!」と気付いた子どもたち。1枚の新聞紙が、子どもたちの発見により様々な遊びへと広がりました。



動きが活発になり、様々な場所でつかまり立ちをする子が増えてきました。窓際でつかまり立ちを始めたSくん。ガラスに手をかけたその時…

「あれ? 何か映ってるぞ?」
ピタッと動きが止まったSくん。その視線の先には、うっすらとガラスに映るSくんの姿がありました。しばらくじーっと見つめた後、「フフフ」と声をあげて笑っていました。上下左右も見渡して、ガラスに映る自分にタッチしたり、手を上下に振って挨拶をして楽しんでいました。



窓でつかまり立ちをしてみたら、思いもよらぬ発見をしたSくん。その日から、窓際はSくんのお気に入りの場所になったようです。



毎日が初めてでいっぱいの子どもたち。様々な『発見』が、また新たな発見に繋がっていきます。子どもたちの驚きや喜びに寄り添い、一緒に面白い発見をたくさんしていきたいです。

ato 1

大人との関わりから子ども同士の関わりへ

新しい環境に心細さや戸惑いの涙を流していた子ども達でしたが、この2カ月ですいぶんたくましく成長しています。

お部屋の隅で涙を溜めて友だちが遊んでいる様子を眺めたり、窓辺に座って外を見つめていたりしていたHさん。少しずつ保育者に気持ちを伝えてくれるようになりましたが、友だちの中に入っていくのは勇気がいることだったようです。そんなHさんの気持ちを知ってか知らずか、Hさんがいる場所に友だちがやって来てちょこんと座るようになりました。別の友だちもやってきました。言葉を交わすわけでもなく、ただそこに一緒に座っているだけでしたが、そんな日が何日も続くうち、Hさんはみんなと一緒に給食やおやつを食べ、興味のある玩具に手を伸ばして遊ぶようになってきました。そばにいてくれる友だちの存在が「ここにいても大丈夫そう」「楽しいところかも」という気持ちにさせてくれたかもしれません。

これまで、保育者に甘えたい、独占したいという気持ちが強く、大人とのやり取りが中心だった子ども達ですが、最近は友だちと一緒に遊ぶことに楽しさを覚え、何かをして喜んでもらえる嬉しさを感じているようです。



採れたてのみかんを友だちにも見せてあげようとする子。ままごとでジュースやアイスを作り「あーん」と食べさせてあげようとする子。おそろいのバッグとお人形を抱えてお出かけごっこをしたり、仲良くパズルに興じたり。

子ども達の姿を見ていると「友だちっていいな！」と言っているかのように感じる今日この頃です。



pico 2

ピコ組、虫探しブーム到来！！

タイトルにある通り、この春ピコ組では虫探しブームが到来しました！お兄ちゃんの影響から虫探しに没頭していたSくん。虫を見つけると「ぎゃー！」と反応したり「先生、見てみて！」と保育者に見せに行ったり。周りがすごく興味をそそられるような反応っぷりを見せっていました。そこへ少しずつ気になり始めた子が集いはじめ・・・TくんやSくん、Dくんなど他のお友達も虫探しに夢中になりました。公園に着くとすぐさま前回虫がいた場所へ行き、四つん這いになりながら探す姿も。1時間遊ぶ時間があると、最初から最後まで虫探しをしていたなんて子もいました。

生き物との触れ合いは、様々な発見をすることだけでなく、命の大切さや思いやりにもつながるんです。初めは力加減が難しく、潰してしまったなんてこともありますでしたが、今では自分たちで力加減を調節しながら捕まえたり、「指を出したら乗っかってくるんだよ」と言いながら指を出してみたりと関わり方も変わってきました！そして、生き物への思いやりから友達への思いやりへ。そういったことをきっかけに、子ども達は思いやりの心を強く抱けるようになるのだなと感じます。



その遊び、楽しそう！やってみたい！

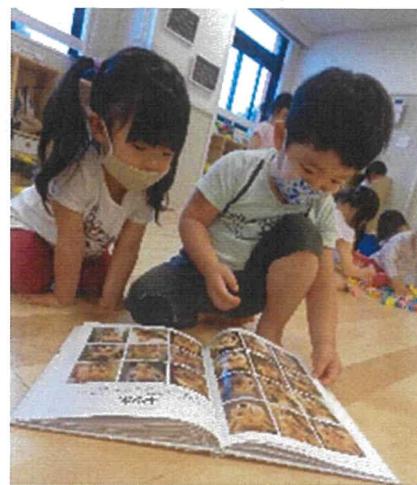


友達同士の関わりが増える中、遊び方にも大きく変化が見られ始めてきました。テレビや保育者のやっていた遊び、兄弟のやっていた遊びなどを通して様々な見立て遊びをする子が、他のお友達に大きな影響力を及ぼしています。例えば、保育者がブロックを使って動物たちのお家ごっこを始めると、同じように組み立てて他の動物用にベッドを作ってくれたり「この子、まだ起きてるよ」と教えてくれたり。また、ままごとを机上まで運んでピクニックごっこを始めると、後日、保育者がいなくても子ども達だけで進めているなんてことも。

ある日、Tくんが見立て遊びをしているお姉ちゃんの真似をしてブロックで“たこ”を作りました。するとSくんも真似して同じように作り上げました。Tくんは嬉しかったようで楽しそうにその場でくるくる回り始め、Sくんも一緒になって二人でくるくる♪このように、兄弟の真似をして遊んでいた子が、そこからさらに友達へ遊びを広げているのだと知って、人との関わりやつながりの大切さを感じました。

「こんな顔してるよ～！」

お部屋の絵本コーナーに『みんなのかお』という絵本があります。その本はライオンやかばなど、様々な動物の顔写真が載っているものです。自由遊びの時間になり、「先生みて！ おおかみがいっぱいいるよ！」とAくんが見せてくれました。絵本をのぞき込むと沢山のオオカミが…！ 「おもしろいね～色んなオオカミがいるんだね。」と話していると、「Aくんはこれがいい！」「Bちゃんはこれ！」と好みの顔を選んでいきます。「なんでそれにしたの？」と質問すると、「だってなんか笑ってるから！」「なんか可愛いお顔だから！」とオオカミにも表情があると気付いたようです。怖い表情をしているオオカミを見ると、「これはAちゃんが怒った時の顔みたいだね～」と冗談を言いながら会話を楽しんでいました。子ども達は言葉だけでなくしっかり相手の表情や雰囲気を感じとりながら過ごしているから、今回の気付きがあったのだと思いました。



「あながあいた！」

砂場で山を作っていたCくん。それに興味を持ってどんどん友達が集まってきた。「もっと高くしょー！」と砂をたくさんかけていきます。「お砂いっぱいかけると、どんどん大きくなるね！ Dちゃんより高くなっちゃうかも～！」と、砂山の様子を楽しんでいました。そのときCくんは「あ、穴があいた。」と山の隣に出来た小さな穴に気付きました。それは山を高くするために砂をくっつけて出来たものでした。「いっぱい砂をくっつうと穴が出来るんだね。」と声をかけると、目をキラキラさせて「うん！！」と返事をしてくれました。大人には“砂を掘ったら穴があく”という当たり前のことが子ども達には大きな発見になっています。砂をどんどんかけると高くなる、どこまで高くなるのだろうと発見と探求に溢れている中で…“沢山掘ると穴があく”という突然の新しい発見！！

子ども達は沢山の発見で刺激的な毎日を過ごしています。



なにげなく過ごしている子ども達の日々の中には、大人には見えないし気付けない気付きが沢山溢れているのだと思います。目をキラッと輝かせ教えてくれたものだけでなく、言葉にしなくて感じている気持ちを大切にして、更に新しい発見をしていくように関わっていきたいです。

nano 4 nano 5

つながる

5歳ナノ組の子ども達が3歳児クラスの時に大切に育てた“青虫”が今年は屋上園庭のレモンの木に現れました。懐かしそうに眺める5歳ナノ組と、珍しそうに眺める4歳ナノ組の会話がとても楽しそう。

青虫になる前の黒い幼虫を見て「ほっぺが青くなってきたから、もう少しで青虫になるんだよ」「怒ると黄色い角が出るんだよ」と教えてあげる5歳ナノ組。虫かごの天井を歩く青虫を見て「なんで落ちないんだろうね」と心配そうに覗き込む友だちに「たくさんの足があるから大丈夫」と話していました。青虫を育てた経験から生き物の大切さ、接し方、発見したこと、教えてもらったことを今度は年下の友だちに優しく伝えています。

幼虫から青虫、青虫からサナギと少しずつ変化していく様子を日々楽しそうに観察しています。



見つけた！

“青虫”から色々な生き物に興味が広がり、日々の散歩では“虫探し”が大人気！石をよけて木の枝でツンツンすると…中からたくさんのアリやダンゴムシが出てきます。接し方も始めは、ギュッと強く掘んでしまい動かなくなってしまうこともありましたが、最近では虫の扱い方に慣れてきて「見て！」と広げた小さな手の中からたくさんのアリとダンゴムシが勢いよく出てきます。

ある日、公園でモンシロチョウが飛んでいるのを見つけ、5歳ナノ組の子ども達が観察していました。それに気付いた4歳ナノ組の子ども達も集まり「なんて名前かな」「きっとアゲハチョウだよ」と話していると、5歳ナノ組の男の子たちは「違うよ、アゲハチョウは黄色と白と黒の模様なんだ」「これはモンシロチョウなんだよ」と、得意げに教えていました。それを聞いて思い出したのか「保育園の青虫はどんなチョウになるんだろうね」とワクワクした様子で話していました。保育園に帰ると4歳ナノ組のRくんが図鑑を広げ「保育園の青虫さん見つけた」と嬉しそうに見せてくれました。公園で話していたことを覚えていて、さらに自分たちで図鑑から調べ上げたことに驚きます。ひとつの疑問から、聞いたり調べたりすることで新しい発見に繋がっていきます。



こんな一面も！？

最近、ホールの舞台を使ってミュージカルごっこをする子ども達。始めは「恥ずかしいからやらない」「見てるだけ」と言っていた子も、今ではもう一回やる！と意気込んでいます。衣装や小道具を着けるだけで不思議と役になりきり、歩き方や仕草もその子のイメージする役をしっかりと再現しています。そこに4歳ナノ組のSくんとKくんが加わりました。普段は恥ずかしがり屋さんの二人も、笑顔で役になりきる姿が！友だちと一緒に表現する楽しさをいっぱい味わっています。

「子どもは何もないところであらゆることを発見する。大人はあらゆるものを目にして何も発見しない。」
ジャコモ・レオパルディ <イタリアの詩人・哲学者>

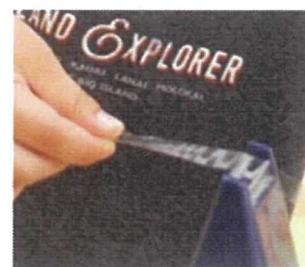
「ねえ見て見て～！」「先生、こっち来て！」「あ！いいこと考えたよ」「ねえねえ、これ知ってる？」



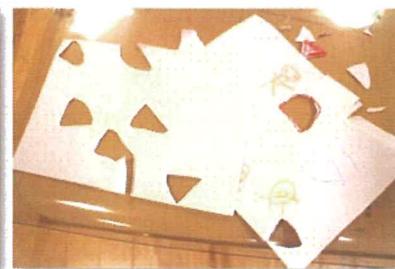
子ども達の傍らにいると、度々このように声をかけられます。そんな時の子ども達は、保育者が何をしていようがお構いなし。目が輝き、嬉しさのあまり鼻を膨らませ…そこには必ず、発見や工夫があります。

ついさっきまで、友達と楽しそうに LaQ で遊んでいた Aくん。気がつくと真剣な顔で手元を見つめています。いつもなら勢いよく引き出すセロテープですが、この時は違います。ゆっくりと慎重に動かす手。そして「知ってる？センのついたテapeの作り方」と私に言います。「え??」そしてほうら見てごらんと言わんばかりに、さらにゆっくりとセロテープを引き出します。

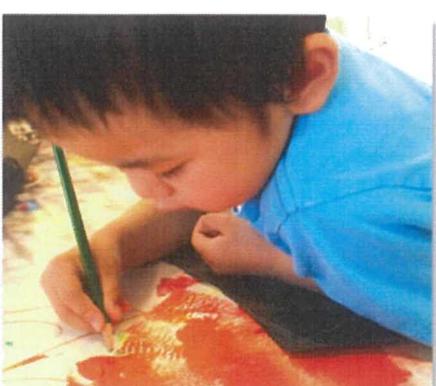
Aくんが発見したのは、モノの TEXTURE (テクスチュア：素材の感触や質感)。見慣れ使い慣れたセロテープの質感を、自分の手で変化させたという感覚。



Yさんは、素敵なダイヤをあしらった自作の腕飾りを黙って見せてくれます。驚くのは、20カラットを優に超えるYさん自作ダイヤモンドのリアリティー。紙を貼り合わせてダイヤモンド独特の円錐型カットを表現する力量、そしてその形にたどり着くまでにいくつもの三角形を切り抜き、試行錯誤を重ねたであろうことを物語る穴のあいた紙。私は目を丸くしました。



晴天の谷戸運動公園では、前日に降った雨でできた水たまりに両手をさし入れ、真剣な顔で何かを感じているKくんの姿。私が「冷たい？」とたずねると、Kくんは「あったかいよ」と教えてくれます。雷様のお風呂かも~と話を続けると「んん、お日様が温めているんだよ」と。これまた脱帽です。



この世界のたのしみ方の先生は、どうやら間違いなく子ども達のようです。

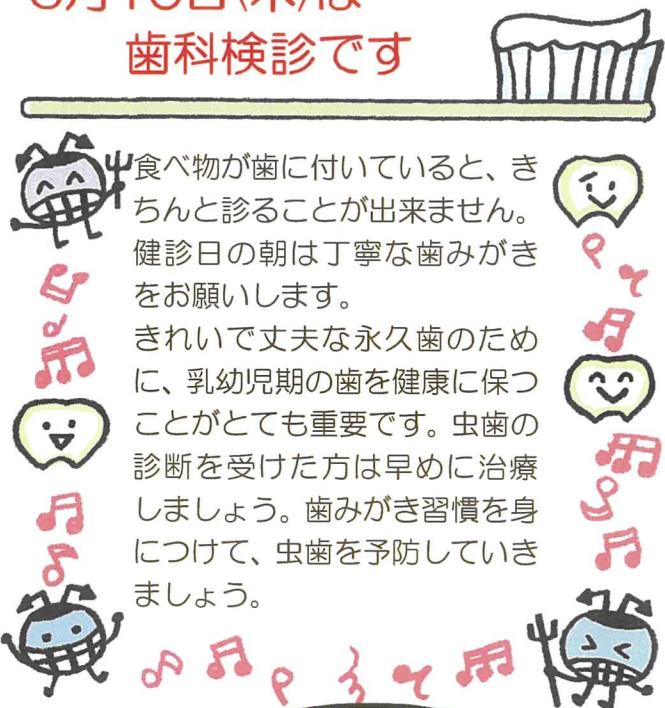
(文責：一然)



6がつのほけんだより

あじさいがきれいに咲く季節となりました。この時期は、急に暑くなる日があったり、肌寒い日があったり、と体調を崩しがちです。バランスのよい食事や睡眠をしっかりととり、元気に過ごしていきましょう。

6月10日(木)は 歯科検診です



食べ物が歯に付いていると、きちんと診ることが出来ません。

健診日の朝は丁寧な歯みがきをお願いします。

きれいで丈夫な永久歯のために、乳幼児期の歯を健康に保つことがとても重要です。虫歯の診断を受けた方は早めに治療しましょう。歯みがき習慣を身につけて、虫歯を予防ていきましょう。

歯みがきのポイント

- ひざの上に子どもの頭を乗せ、寝かせみがきをしましょう。
- ハブラシは鉛筆と同じように持ち、軽い力でみがきましょう。
- 1本1本丁寧にみがきましょう。
- 奥歯の溝、歯と歯ぐきの間、歯と歯の間、歯の裏は特に丁寧にみがきましょう。
- 前歯は歯ブラシを90度にあててみがきましょう。
- 歯と歯ぐきの間は歯ブラシを45度にあてましょう。



全園児健診は 6月17日(木)です

プール・水遊び前の健診になります。当日お休みされた方は後日受診して頂くことになります。とびひ等うつる恐れのある皮膚の病気や、グジュグジュして絆創膏が必要なケガがある時はプール・水遊びはできません。しっかり治しておきましょう。風邪のほか、目、耳、鼻の病気は治療を終えておきましょう。



0歳児健診

6月3日・17日です

あせものは、汗の出る穴が詰まり皮膚の内側に汗が溜まって炎症が起こったものです。



矢野先生より、保湿のワセリンは汗の出る穴をふさぎ、症状を悪化させてしまうとの事です。使用には注意しましょう。ひっかき傷の状態によって水遊びが出来ないことがあります。こまめに汗をふく、シャワーをして皮膚を清潔に保ちましょう。症状が改善しない時は早めに受診をお願いします。



Lunch & Snack time

食育だより

今年も梅雨の時期がやってきました。涼しい日、暑い日の差が激しいと子どもたちも疲れが出やすいです。体調の変化に気をつけて無理のないように過ごしていきたいですね。気温と温度差が高いと食中毒も心配な時期です。お家でもこまめな手洗いや食材の温度管理など対策を心掛けてみてください。

食中毒に注意！！

食中毒は6月から10月にかけて多く発生します。細菌の活動しやすい気温と温度がそろっているためです。
保育園でも細心の注意を払って給食を提供しています。
ご家庭でも、食べる前に必ず手洗い、しっかりと加熱し速やかに食べるよう心がけましょう！！

【食中毒予防の3原則】

■ 食中毒予防の3原則



カルシウム

歯をつくる素となる



たんぱく質

歯の土台になる



ビタミンD

カルシウムの吸収を助ける



ビタミンA

歯の成長と修復を促す



ビタミンC

歯茎を健康に保つ

(歯と健康のラボラトリーサイト内一部抜粋)

今が旬！このコーナーでは旬の食材を紹介していきます。

わたしは
きゅうりちゃん



わたししきゅうりちゃん！！

わたしの体は9割が水分でできてるの。水を飲むよりも胃や腸に留まって質の良い水分を補給できるのよ。カリウムが豊富で、身体を冷やす効果があるの！夏にはうってつけよ。ミネラルたっぷり！新陳代謝やアンチエイジングにも良いの！青臭さにはピラシンが含まれて、血液をサラサラにする効果があるの。今月は、サラダに変身！いっぱい出るからチェックしてみてね！！

